

「秋田市しあわせづくり市民意識調査Ⅳ」調査結果の概要

1 住みごこちについて

(1) 全体的評価

本市の住みごこちに対する全体的な評価は、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が73.1%と、全体のおよそ4分の3の市民が住みやすいと感じており、前回調査結果（70.5%）から2.6ポイント増加しています。

年代別では、特に20代が23.0ポイント増、30代が6.8ポイント増と住みやすさの実感が増しており、総合的にみれば、住みやすい都市と評価されているといえます。

区分		「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」 の割合（前回調査比）
全体		73.1%（+2.6ポイント）
年代別	10代	65.2%（-0.9ポイント）
	20代	79.3%（+23.0ポイント）
	30代	73.2%（+6.8ポイント）
	40代	72.0%（+1.3ポイント）
	50代	65.2%（-4.6ポイント）
	60代	73.3%（+4.2ポイント）
	70代以上	78.7%（-0.2ポイント）

(2) 分野別評価

分野別評価（全31項目）で「よい」「どちらかといえばよい」を合わせた割合が高い上位10項目をみると、「食の安全・安心」が7.4ポイント増、「市役所の窓口サービス」が6.3ポイント増、「広報あきたなど市政情報の得やすさ」が5.1ポイント増となるなど、8項目で前回調査時よりも評価が上がっています。

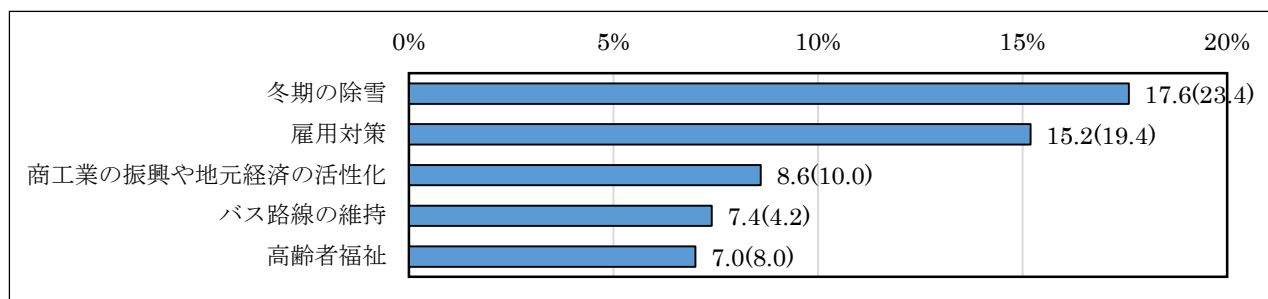
	項目	「よい」「どちらかといえばよい」 の割合（前回調査比）
1	食の安全・安心	52.2%（+7.4ポイント）
2	公園や緑地、街路樹など緑の豊かさ	45.1%（-0.1ポイント）
3	ごみの収集・処理やリサイクルへの取り組み	42.7%（+2.8ポイント）
4	広報あきたなど市政情報の得やすさ	33.6%（+5.1ポイント）
5	健康診断や予防接種などの受けやすさ	32.7%（+2.6ポイント）
6	市役所の窓口サービス	27.5%（+6.3ポイント）
7	病院などの医療機関の利用しやすさ	26.2%（-0.1ポイント）
8	子どもの育てやすさ	23.6%（+3.5ポイント）
9	買い物のしやすさ	23.2%（+2.4ポイント）
10	まちなみなどの景観	22.7%（+1.6ポイント）

一方、「悪い」「どちらかといえば悪い」の割合が高い上位10項目をみると、「バス・電車などの利用しやすさ」、「レジャー・娯楽などレクリエーションのしやすさ」、「高齢者・障がい者の生活のしやすさ」、「道路の整備状況」の4項目では前回調査時よりも評価が悪化しています。

	項目	「悪い」「どちらかといえば悪い」の割合（前回調査比）
1	産業や雇用の状況	70.0% (-11.1ポイント)
2	冬期の除雪	62.3% (-7.0ポイント)
3	まちのにぎわい	60.5% (-10.4ポイント)
4	バス、電車などの利用しやすさ	58.4% (+5.8ポイント)
5	観光地としての魅力	53.2% (-8.5ポイント)
6	経済・学術交流などの国際化の進みぐあい	40.6% (-2.6ポイント)
7	レジャー・娯楽などレクリエーションのしやすさ	39.1% (+0.2ポイント)
8	高齢者・障がい者の生活のしやすさ	35.2% (+3.2ポイント)
9	道路の整備状況	30.5% (+1.5ポイント)
10	市民の市政参加のしやすさ	28.1% (-1.0ポイント)

2 秋田市の施策について

最も力を入れて欲しい施策については、「冬期の除雪」の割合が最も高く、これに「雇用対策」が続きました。また、前回調査では上位になかった「バス路線の維持」が4位に入りました。



3 成長戦略について

(1) 重要度および満足度

現計画で設定した5つの成長戦略の重要度については、「戦略1 地域産業の振興と雇用の創出」が最も高く、「戦略4 子どもを生き育てやすい社会づくり」が続きました。

一方、満足度については、「戦略3 豊かな自然をいかした環境立市の確立」が最も高く、「戦略5 いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり」が続きました。

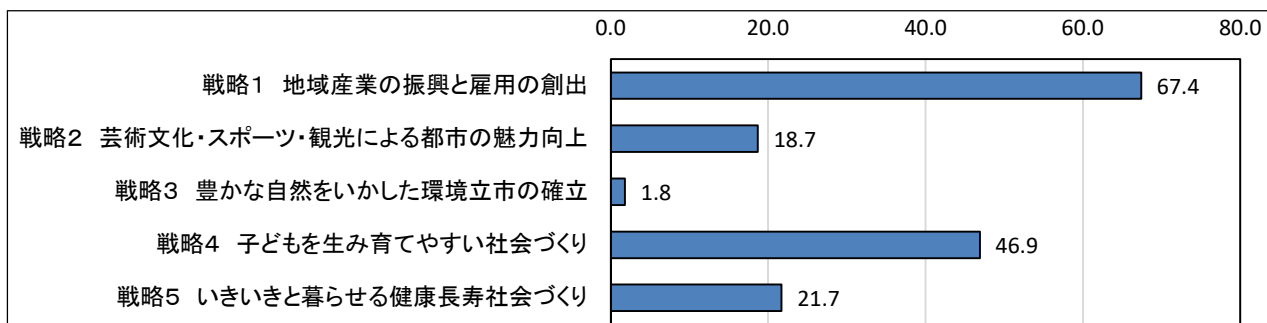
	重要度	満足度
戦略1 地域産業の振興と雇用の創出	29.0	-38.4
戦略2 芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上	7.5	-11.2
戦略3 豊かな自然をいかした環境立市の確立	-2.1	-3.9
戦略4 子どもを生き育てやすい社会づくり	28.4	-18.6
戦略5 いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり	10.7	-11.1
平均値	14.7	-16.6

【参考 前回調査結果】

	重要度	満足度
戦略1 都市イメージ「ブランドあきた」の確立	-5.2	-26.3
戦略2 地域産業の競争力強化	2.1	-31.5
戦略3 観光あきた維新	-1.9	-30.0
戦略4 環境立市あきたの実現	-8.8	-15.9
戦略5 エイジフレンドリーシティの実現	12.0	-17.3
戦略6 次世代の育成支援	22.2	-30.4
平均値	3.4	-25.2

(2) ニーズ度

重要度の評価点から満足度の評価点を差し引くことによりニーズ度（市民が市に取り組んでもらいたいと考えている度合い）を算出したところ、「戦略1 地域産業の振興と雇用の創出」のニーズ度が突出して高く、次いで「戦略4 子どもを生み育てやすい社会づくり」となりました。



【解説】重要度・満足度・ニーズ度の算出について

①重要度・満足度の算出式

[高い（満足）と回答した数×2点]+[どちらかといえば高い（満足）と回答した数×1点]

+ [どちらかといえば高くない（不満）と回答した数×-1点]+[高くない（不満）と回答した数×-2点]

(有効回答数×2)

×100

②ニーズ度の算出式

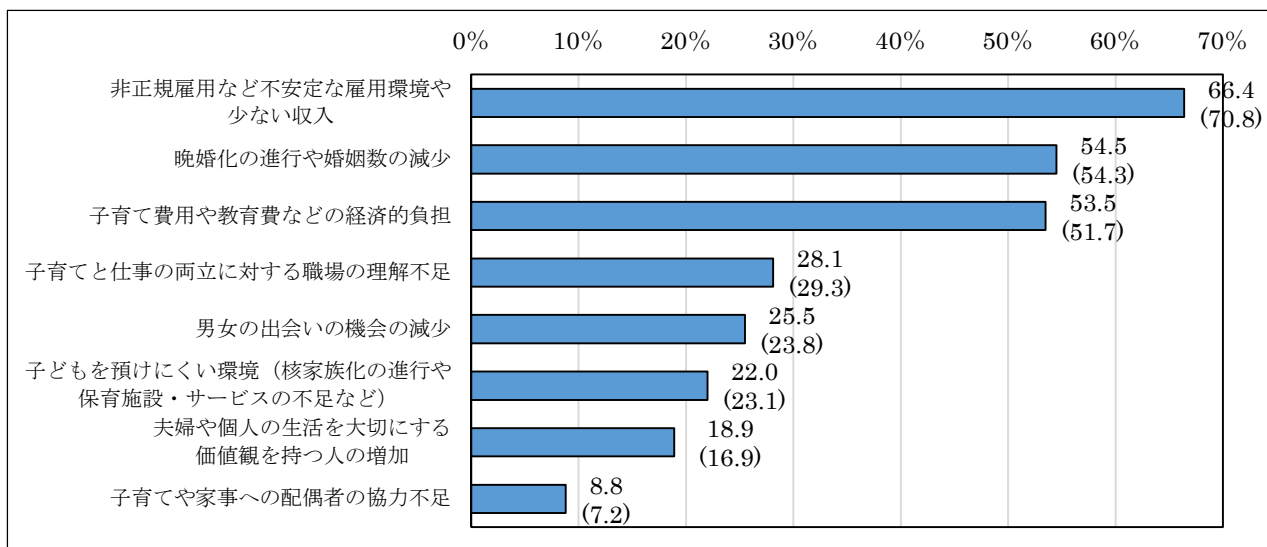
[ニーズ度] = [重要度] - [満足度]

4 人口減少社会について

(1) 少子化の要因

少子化の要因として影響が大きいと思うことを8項目の中から3つ選択してもらいました。

「非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入」の割合が最も高く、「晩婚化の進行や婚姻数の減少」、「子育て費用や教育費などの経済的負担」が続きました。この順位は前回調査と同様であり、不安定な雇用環境と低収入が結婚や出産、子育ての妨げになっているとの認識に変化はないと言えます。



※（ ）内の数値は前回調査結果

(2) 今後も秋田市に住み続けたいか

「住み続けたい」と「事情が許せば、住み続けたい」を合わせた割合が74.4%と全体のおよそ4分の3近くを占めた一方、前回調査結果から1.8ポイント減少しており、特に10代で大きな減少が見られました。

区分		「住み続けたい」「事情が許せば、住み続けたい」の割合（前回調査比）
全体		74.4%（-1.8ポイント）
年代別	10代	36.6%（-21.9ポイント）
	20代	56.4%（-2.8ポイント）
	30代	62.9%（-1.5ポイント）
	40代	70.8%（+4.1ポイント）
	50代	68.7%（-10.0ポイント）
	60代	77.5%（-2.9ポイント）
	70代以上	89.3%（-0.3ポイント）
出身地別	秋田市内	78.0%（-0.9ポイント）
	秋田市以外の秋田県内	74.2%（-4.6ポイント）
	秋田県外	59.0%（+3.6ポイント）

(3) 秋田市に住み続けるために必要なこと

「あなたやあなたの家族が秋田市に住み続けるために必要だと思うこと」を11項目の中から3つ選択してもらいました。

その結果、前回調査時と同様、「雇用の場の確保」という回答が最も多くなり、「若者にとって魅力のあるまちづくり」と「高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実」の割合は前回調査から増加しました。

	項目	割合（前回調査比）
1	雇用の場の確保	61.6%（-1.6ポイント）
2	若者にとって魅力のあるまちづくり	48.9%（+6.3ポイント）
3	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	44.6%（-3.5ポイント）
4	高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	29.5%（+2.3ポイント）
5	まちのにぎわいの創出	22.9%（-1.3ポイント）